

(様式3号)

学位論文の要旨

氏名 後藤 奈穂

〔題名〕

医療的ケア児への行政保健師の活動指標の開発に向けた検討

〔要旨〕

本研究は、保健所保健師による医療的ケア児とその家族への支援の実態を明らかにし、医療的ケア児への行政保健師の活動指標の開発に向けた検討をすることを目的とした。

第1章では、保健所保健師が支援した4事例について、事例の関わりのはじめから調査時点までに関わった複数の保健師へグループインタビュー調査を行った。インタビュー内容を類似性でカテゴリー化し、平野の「保健所保健師に求められる実践能力項目」の枠組みで分類整理し、保健師活動の特徴を検討した。第2章では、全国の保健所(415箇所)に所属する医療的ケア児支援の担当保健師を対象に、第1章で明らかになった支援内容から医療的ケア児支援項目を作成し、保健所保健師が必要だと認識する程度を「必要性認識度」、実際にその項目を実践する程度を「実施度」として郵送による自記式質問紙調査を行った。記述統計、探索的因子分析により保健所保健師による医療的ケア児支援の構成因子を明らかにし信頼性と妥当性を検証した。その結果、構成因子として、家族成員一人一人の心身の状態を把握しアセスメントするための【家族単位の在宅ケアニーズ判断】、保護者からの情報収集や共に喜ぶ【保護者へのアプローチ】、児の個別性に重きを置いた【児の医療ニーズと障害に関するニーズに着目する】、先を見越してリスクアセスメントし支援体制を整える【危機発生への備え】、支援者間での情報共有や連携促進のための【支援者間で方針の共有と検討】、ライフイベントへの保護者の判断を支援する【発育発達に伴うライフイベントへの対応】が導出された。

導出された6要素について、保健所保健師による支援、および医療的ケア児への支援としての観点から、先行研究をもとに妥当性を検討し、医療的ケア児への行政保健師による活動内容の重要な要素であることを確認した。引き続き研究を重ね、活動指標とその下位の具体的活動項目を精錬させる必要がある。

学位論文審査の結果の要旨

報告番号	甲 第 1686 号	氏 名	後藤 奈穂
論文審査担当者	主査教授	堤 雅恵	
	副査教授	野垣 宏	
	副査教授	牛尾 裕子	
学位論文題目名 (題目名が英文の場合は、行を変えて和訳を括弧書きで記載する。)			
医療的ケア児への行政保健師の活動指標の開発に向けた検討			
学位論文の関連論文題目名 (題目名が英文の場合は、行を変えて和訳を括弧書きで記載する。)			
医療的ケア児に対する保健師活動一個別事例への保健所保健師の支援に焦点を当てて—			
掲載雑誌名 山口医学			
第71巻 第2・3合併号 P.65~74 (2022年8月 掲載 掲載予定)			
(論文審査の要旨)			
<p>申請された学位論文は、行政保健師が行う医療的ケア児への支援について、グループインタビューによる4事例への支援内容の整理と、全国の保健所保健師を対象にした質問紙調査の2つの研究で構成されていた。</p> <p>【研究1】</p> <p>医療的ケア児4事例に対して担当した保健所保健師がどのような支援を行ったのかを、グループインタビューによって明らかにする調査を実施した。</p> <p>【研究2】</p> <p>全国の415保健所において医療的ケア児を担当している保健師を対象に、「保健所保健師の実践能力項目」をベースに研究1から導き出された医療的ケア児支援項目に沿って必要性認識度と実施度の調査を行った。</p> <p>これら2つの研究結果から、行政保健師が行う医療的ケア児への支援内容として、【家族単位の在宅ケアニーズ判断】【保護者へのアプローチ】【児の医療ニーズと障害に関するニーズに着目する】【危機発生への備え】【支援者間で方針の共有と検討】【発育発達に伴うライフイベントへの対応】の6要素が導き出されたが、施策化等の要素は含まれず、項目の精錬が望まれた。</p> <p>本研究は、行政保健師が行う医療的ケア児への支援に関する活動指標の開発を目指したものであるが、研究1は4事例のみの検討にとどまり、研究2では用いた枠組みからみて十分な結果が得られなかった。よって、目的とした活動指標の開発には至らず、途上にある。しかしながら、医療的ケア児が顕著な増加を続ける時代のニーズに応えようとする研究であり、支援を担う保健師の人材育成に結果を役立てることができることから、社会への貢献が期待できる。以上から、審査委員会は、申請された学位論文が博士(保健学)を授与できるものと認め、合格とする。</p>			
以上			

備考 審査の要旨は800字以内とすること。